

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	5	学校名	宇都宮市立陽西中学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

令和4年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

国、県、市の方針や地域の実態を踏まえるとともに、「人間尊重の精神」を基盤として、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献できる日本人の育成を目指す。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

生徒の指標（生徒の信条） ○敬愛の心があつく心情豊かな生徒 ○よく考え主体的に行動できる生徒 ○体力気力の充実した健康な生徒	生徒会の合言葉 協力と挑戦が鍵になる ～つないでいく伝統・輝く未来～
---	--

2 学校経営の理念

第2次宇都宮市学校教育基本計画の基本理念、また第2次宇都宮市学校教育スタンダードにある「誰もが安心して学べ、活力にあふれる学校」を目指し学校経営に努める。

(1) 学校テーマを「温もりある学校・やる気あふれる学校・外に開かれた学校」とする。

多様な教育的ニーズを持った生徒一人一人の状況をよく理解し、適切な指導・支援を家庭・関係機関と連携して行う。同時に潤いのある校内環境を構築する。そして、適切なルールやリレーションが確立された、教育力のある望ましい学級集団づくりに努める。その中で、他者理解力や思いやりの心を育成しながら温もりのある学校づくりを目指す。

また、あらゆる学校教育活動において、一人ひとりの良さを認め、生徒が自己肯定感を高められるよう工夫し続ける。その中で、生徒がやる気にあふれる学校づくりを目指す。

さらに、家庭への積極的な情報発信と相互理解の推進、PTA・魅力ある学校づくり地域協議会等との連携強化に努め、地域の教育資源を活用できる体制作りに努める。

(2) 学校テーマを達成するためには、教職員一人ひとりが、教育への情熱と使命感を持ち信頼できる教職員を目指し、多様な教育的ニーズをもった生徒の状況を理解し、適切な指導・支援が行える教職員集団の形成が必要である。そのために、生徒理解を深めるための研修コンプライアンス研修、各教科経営計画の継続的な見直しを含む研修等を効果的に行い、下記の信頼される教職員を目指す。

- ① 公教育に従事する者としての自覚と使命感にあふれる教職員
- ② 生徒の個性を尊重し、共にのびてゆく教職員
- ③ 厳しく、温かく、公平で、信頼される教職員
- ④ 常に研究と修養に励み、健康で魅力あふれる教職員
- ⑤ 社会人として生徒の模範となる責任ある行動がとれる教職員

3 学校経営の方針

(1) 各種調査から

「令和3年度学校マネジメントシステム全体アンケート」では、教師の生徒に対する肯定的捉え方が非常に良い傾向にある。また、「教職員がチームとなり協力して取り組んでいる」では、肯定的割合が100%であった。反面、「業務の効率化」では、改善が必要であろうとの結果であった。保護者・生徒においては、令和2年度と比較し、多くの項目で向上している。反面、「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」の項目での向上が課題である。また、「学習内容定着度調査～学習と生活についてのアンケート～」からは、家庭学習への取り組みや授業理解度に関して、課題が見られた。

(2) 令和3年度の学校の状況について

令和2、3年度と新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な制限がかかる状況での学校運営であった。その中であっても、「確かな学力を育む教育」「豊かな心を育む教育」「健康・安全な生活を実現する力を育む教育」「情報社会に対応する教育」「特別支援教育の推進」「いじめ・不登校対策の強化」「多様な教育的ニーズの対応強化」「チーム力の向上」「ICTを活用した教育活動」等に力を入れてきたが、さらなる向上が求められるところである。

(3) 令和4年度の目指す学校経営について

①「温もりのある学校づくり」

- ・教職員が、多様な教育的ニーズをもった生徒の状況を理解し、適切な指導・支援をチームとして行い、生徒・保護者・地域から信頼されるよう努める。
- ・生徒・保護者・教職員相互の望ましい人間関係づくりに努める。
- ・特別活動、学校行事等を通して、協働的な体験やその振り返りを通して、自己肯定感を育めるように努める。
- ・教職員の資質の向上、健康管理に努める。
- ・明るく健康的な職場づくりに努める。
- ・校舎内・校庭等における環境美化、掲示物等の充実に努める。

②「やる気あふれる学校づくり」

- ・社会に開かれた教育課程編成に努める。
- ・学習指導の充実に努める。
- ・特別支援教育の理念を生かした教育の充実に努める。
- ・心の教育の推進に努める。
- ・特色ある学校づくりの推進に努める。
- ・積極的な生徒指導、教育相談の充実に努める。
- ・体力の向上と健康安全教育の充実に努める。

③「開かれた学校づくり」

- ・地域人材等教育資源を有効活用し、教育活動の効率化を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。
- ・学校HP、学校たより、学校公開等を活用し、積極的な情報発信・提供に努め、「知ってもらおう運動」を推進する。
- ・地域学校園事務室機能を積極的に活用し、学校園内小学校、地域との連携を推進する。

④「実効性のある小中一貫教育の推進」

- ・地域学校園内で共通する課題を「自己肯定感」「将来への夢や希望」「家庭学習」の3点ととらえ、小中一貫各部会において教育活動を推進することとした。

【陽西地域学校園教育ビジョン】

『自己の「よさ」を生かすとともに他者を尊重し、粘り強く頑張る子どもの育成』
～協働的な学びを通して、自己肯定感を育む教育活動の推進～

⑤「学校における働き方改革に関する視点」

- ・生徒理解・支援、不登校・問題行動等への対応については、校内ケース会議を有効活用し、より効果的な対応となるよう管理職が率先して取り組む。
- ・校務分掌の見直しや、校務の明確化、適正化に努める。
- ・リフレッシュデーを毎月導入し、勤務時間を意識した働き方の推進に努める。
- ・学校行事等の在り方を見直し、業務のスリム化に努める。

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ①関係法令、学習指導要領、第2次宇都宮市学校教育推進計画、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和4年度の指導の重点に基づき、発達段階や生徒の実態・特性を考慮した特色ある教育活動を展開し、公教育の自覚のもとに、全教職員と協力して本校教育目標の実現を目指す教育課程とする。
- ②基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。
- ③道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。
- ④学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。
- ⑤教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくとともに、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことに努める。

(2) 留意点

- ①学年・学校行事、総合的な学習の時間、教科学習内容を単元・題材等について効果的な横断的配置に努める。
- ②前年度の各種学力調査結果を踏まえて、各教科において縦断的に指導内容の重点化や授業時数の配当に努める。
- ③各教科部会において、「今年度の取組と成果・課題」、「次年度の取組」、「今年度の取組み確認」、「中間振り返り」等を行い、適切にPDCAサイクルを回すよう努める。
- ④自己実現のための意欲の向上を図るキャリア教育の推進を教育課程に位置づけ、総合的な学習の時間、特別活動、道徳科での指導を工夫し、地区内小学校とのつながりがもてる社会性育成のプログラムとなるよう努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- （１）学校運営 「温もりのある学校・やる気あふれる学校・外へ開かれた学校」
- （２）学習指導 「協働的な学びを通して思考を深め、主体的に学ぶ生徒の育成」
- （３）児童生徒指導 「きまりを守り、正しい判断のもと主体的に行動する生徒の育成」
- （４）健康（体力・保健・食育・安全）

「健康課題に関心を持ち、心身ともに健康な生活を営むことができる生徒の育成」

※「学校における働き方改革に関する視点」

- ・生徒理解・支援、不登校・問題行動等への対応については、校内ケース会議を有効活用しより効果的な対応となるよう管理職が率先して取り組む。
- ・校務分掌の見直しや、校務の明確化、適正化に努める。
- ・リフレッシュデーを毎月導入し、勤務時間を意識した働き方の推進に努める。
- ・学校行事等の在り方を見直し、業務のスリム化に努める。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式２～４参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

- （１）育てたい資質・能力

〔知識・技能〕

- ・知識・技能の定着を図るとともに、社会の様々な場面で活用できる知識・技能の育成。

〔思考力・判断力・表現力等〕

- ・体験から感じ取ったことを表現したり、互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えをより発展したりできる思考力・判断力・表現力等の育成。

〔学びに向かう力、人間性等〕

- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやり等の育成。

- （２）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 学力向上のための取組

- ・対話を通じた主体的で深い学びを実現するため、各教科部会の効果的な実施や一人一授業公開を行い、授業力の向上・わかる授業の展開に努める。
- ・習熟に応じた支援や学習形態などの工夫により生徒一人ひとりに「わかる授業」を展開するよう努める。
- ・教材やＩＣＴ等を活用し、ユニバーサルデザインを意識した授業展開により、興味関心の喚起・持続力や集中力を高めるよう努める。

- ◇ 生徒の基礎的な知識及び技能の定着を目指し、地域や外部の方を活用し、放課後学習や土曜日学習を行い、学力補充に努める。

② 社会性を育むキャリア教育の推進

- ・進路指導を指導計画に基づき、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動等において、「宮・未来キャリアパスポート」の活用を推進し、各学年でのキャリア発達の課題に対応した教育を推進する。

- ・ 社会の第一線で活躍する方を招聘し、その生き方に触れるとともに、自己を理解し管理する力や将来を設計する力などを計画的に育むとともに、自己の生き方を考えさせる取組を推進する。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会や地域諸団体と連携・協力し、地域の一員として役に立っている活動(ボランティア活動等)に生徒会を中心に積極的に参加・協力する。

③ 学校花いっぱい活動（フラワープロジェクト）の推進

- ◇ 生徒一人一人に、校内環境美化に関心を持たせるとともに、豊かな心、思いやり、感性を育み、教職員からの認め励ます教育を推進することにより、自己肯定感の育成・温もりのある校内環境の構築を目指す。

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

子どもの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中でよりはぐくまれるものであり、学校のみで育めるものではない。加えて、近年の社会の変化に伴い多様化・複雑化するニーズに学校の教職員や行政の力だけで対応していくことは困難となっており、学校が地域社会においてその役割を果たしていくためには、地域の人々（保護者・地域住民等）の支えが必要となっている。陽西中学校は立地上、地域・自治会等との関係がやや希薄な状況にある。そのため、地域や地区市民センター等との連携を地道に図ることを継続する必要がある。

②主な取組

- ・ 福祉体験活動（わかくさ特別支援学校等）
- ・ 地区内におけるボランティア活動。
- ・ 地域協議会と連携し、宮祭りにおける「陽西中よさこい踊り」の参加。
- ・ 地域協議会と連携した、土曜日学習の実施。
- ・ 学校だよりの地区内コミュニティセンターへ配布、自治会回覧依頼、学校HPによる積極的な配信等において「知ってもらふ運動」の推進。
- ・ 地域未来会議の実施。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

令和2年度に、地域学校園小中学生の良さや課題等を、「宇都宮市学習定着度調査結果」や「学習と生活についてのアンケート」等から、小中共通理解のもとに確認をした。

その中で、課題を「自己肯定感の醸成」「将来の夢や希望への意識向上」「家庭学習の定着」の3点と設定し、令和3年度各学校、各部会において取り組んだ。

令和3年度の調査結果等からはまだはっきりとした向上が見られない。そのため、令和4年度も課題を同じものに設定し、取り組みを進めることとした。

また、地域学校園小中一貫教育組織については、スリム化を図って取り組んできたが各部会、企画委員会、運営部会において有効性が認められ、働き方改革にも資するとい

う意見が多く、令和4年度も同様の組織で活動していく。

②主な取組

- ・スリム化を図った地域学校園小中一貫教育組織において、課題解決の取り組みの実施とPDCAサイクルを生かした、より効果的な小中連携を推進する。
- ・乗り入れ授業(中⇒小)を実施する。
- ・地域学校園あいさつ運動(年間2回)を実施する。
- ・毎月一回の地域学校園校長会議の実施により、小中の連携を図る。

(3) 不登校対策

①基本的考え

不登校に限らず、いじめ問題や不応症に悩む生徒は、少なからず在籍する現状がある。対策として、学級経営においては、「ルール」「リレーション(ふれ合いのある本音の感情交流)」の確立に努める。「挨拶」「励まし」「称賛」等、お互いがより身近に感じられる雰囲気を作成する。更に教職員の丁寧な見取りを、関係職員で共通理解し、適切な指導・支援を、家庭の協力を得ながら実施する。その中で、生徒一人一人が自分の居場所となれる温もりのある学級経営に努める。これらを念頭に入れながら学校運営に取り組んでいる。

教職員組織においては、生徒指導・教育相談部会を中心に、SCM、特別支援C○、SC、MS、関係外部機関と連携し、別室登校支援の充実を図りながら、ケース会議を有効に活用し計画的に支援を行う。

②主な取組

- ・明るい学校生活アンケート調査による生徒の状況把握(年6回)を行う。
- ・生徒指導部会、教育相談部会での生徒の状況把握と支援方針に基づき、SCM、特別支援C○、MS等で連携して対応する。
- ・本校作成の生徒指導カルテの有効活用する。
- ・不応症生徒の教室復帰へ向けた個別対応教室の効果的な活用を努める。
- ・適切な個別ケース会議、関係機関との連携に基づいた効果的支援の実施に努める。

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

- ・タブレット型PCの利活用について

「学校マネジメントシステム 生徒アンケート」の「生徒はICT機器や図書等を学習に活用している」項目において、課題が見られた。

今後、「主体的で、深い学び」を学校教育で目指すために、活用方法の生徒への適切な指導・支援や、家庭との連携が必要となってくる。もちろん、教職委員も利活用方法について更なる研究が必要とされる。本校としても、ICT活用担当チームを中心に全教職員が一体となって研究を深めるよう取り組んでいる。

- ・情報モラル教育推進について

「情報モラル教育年間指導計画に基づき、ネットトラブルやネット依存防止を含むデジ

タルシティズンシップ（情報技術の利用において、自ら正しく判断し、責任を持って行動する）の育成に取り組んでいる。

②主な取組

- ・タブレット型ＰＣの持ち帰りを毎日として、週の初めに各学年生徒に向けて、クラスルームにその週の課題等を載せて取組みの促進を図る。
- ・必要に応じて、「ＰＣの日」を各学年、又は全校で設けて、取り組む。
- ・ＩＣＴ教育担当チームを校務分掌に置いて、各学年教職員への支援や学校教職員全員での研修等を企画し、理解促進を図る。同時に、各教科部会の中でも時間を確保し、教科の特性を考えた利活用の研修にも取り組む。
- ・デジタルシティズンシップの育成については、各学年ＩＣＴ担当者から、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」をもとに各学年において、適切に取り組む。さらに必要に応じて、生徒指導部と連携し研修会等を企画する。

（５）宇都宮学

①基本的考え

「宇都宮学」の学習や「道徳科地域教材」を用いた授業を通して、地域の教育資源や資料等を活用し、伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や、郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土等について理解する学習を行うなどして、生徒が郷土への愛情と誇りを持てるようにする。

「学校マネジメントシステム 生徒アンケート結果」では、過去３年の経年変化は毎年向上している。引き続き、郷土への愛情を育む学習の推進を各学年での総合的な学習の時間、道徳の授業において取り組む。

②主な取組

- ・総合的な学習の時間において、１年生は「宇都宮の歴史、過去・現在・未来」、２年生は「宇都宮の今」、３年生は「宇都宮の未来」をテーマとした学習に取り組む。
- ・道徳教育推進教諭を中心として、各学年において「道徳科地域教材」の扱い方について研究し、各クラスでの授業実践を行う。